

山行NO 山行NO. 1825-1

日時 2019.07.14(日)~15日(月)

山域 日高山脈・幌尻岳(2052m・深田百名山)~戸蔦別岳(1959m)

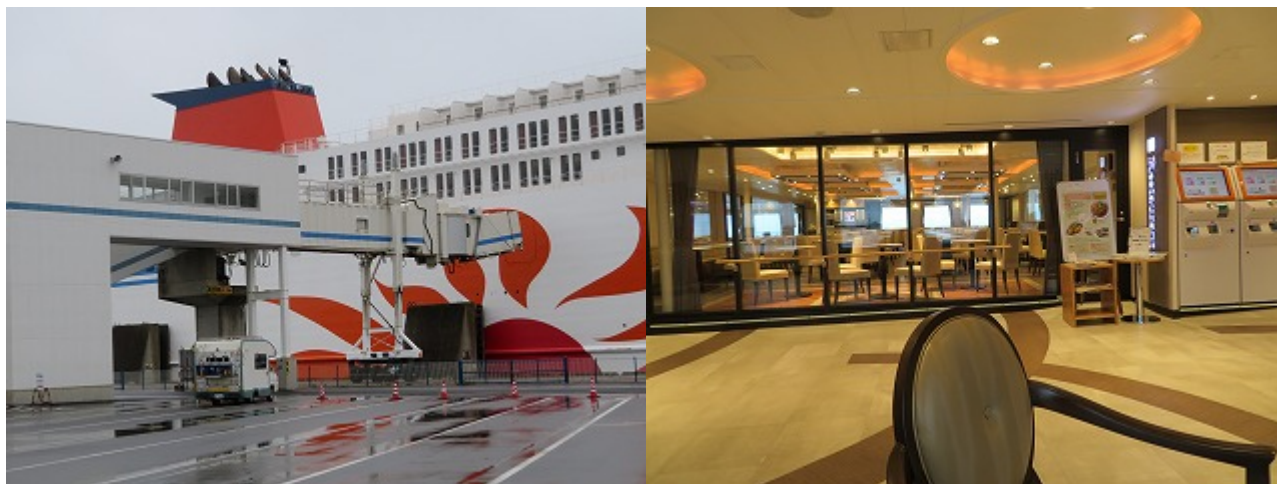
07月14日(晴れのち雨)

コース とよぬか荘バス8:00-ゲート発8:52-北電取水口-額平川渡渉点10:49-
幌尻山荘12:39(泊)

標高差 上り 林道終点約730m~幌尻山荘約950m=約220m(林道長い)
下り なし

3年連続の北海道

北海道は今年で3年連続。今回の主な目的は、懸案の幌尻岳登山。過去、2年は上れなかった。一昨年は北面のチロロから目指したが、台風で林道が流され4時間歩き時間切れ。昨年は、大雨で額平川(ぬかびらかわ)が増水し、四ノ沢付近までしか行けず我々3名は下山。一緒だった、管理人のみ山荘に入った。今回、管理人と再会したが、彼は2週間小屋に閉じ込められたとのこと。我々は上らなくて良かった。(北海道では、閉じ込めは、よくあること)



サン・フラワー

13日、大洗から19:45夕方便フェリーで14:00苫小牧着。

フェリーは、往復約4万。寝室はカプセルホテル風のベッドで一応個室。レストラン食は1500円でマズマズ。風呂が完備。朝も6:30から利用できる。

船はサン・フラワー。帰りは少し揺れた。深夜便は揺れないという。深夜便は元々、日本海用の船で荒波に強い設計。揺れている時、廊下を移動するとフラフラする。時間が長いのでやや退屈。本などを持参したほうがイイ。

北の天気はまあまあだった。今回は、天気を精査し臨んだ。フェリーは当日、空いていれば変更は可。結局、2~3回日程を変更した。苫小牧から車で取手町の「とよぬか荘」着。丸坊主で強面の



サッポロ生・500-



夕食



とよぬか荘



ジンギスカン料理



2018年・額平川



2019年

管理人は、昨年の我々を覚えていた。兎に角、昨年の前半は大変だったらしい。
とよぬか荘は空いていた。今日、日帰りの女性と情報交換。多忙なので日帰り。額平川の水は少ないという。翌日は、4時のバスもあるが、8時のバスで入山。ドライバーは、虫が嫌いな若い方。
1時間で終点。ここから林道を約2時間歩く。昨年、雪代で流された終点の橋は、すでに再建されていた。随分、早い対応。
額平川は全く問題なく幌尻山荘着。小屋は空いていた。昨年の管理人と再会。年齢は50歳くらい。



2018年



2019年



幌尻山荘

いろいろ話をしたが、自宅の庭に「コマクサのお花畑」がある写真を見せてくれた。北海道ならではの話である。

幌尻山荘（小屋）は、ログハウス風の二階建ての立派な作り。素泊まり2000円。食料は自分で上げる。水はある。ビア350mlが700円。板の間に敷く毛布が一枚出る。元々、営林署の施設を町が払い下げ山荘にした。しかし、道路がない山で機材・部材を上げるのは、容易なことではなかっただろう。古の関係者の情熱には、感謝の言葉もない。ここに小屋がなかったら、簡単に上れない。

収容人員は45名。完全予約制。つまり日帰りを除けば、一日45名しか登山出来ない。電灯はある。電源は、水力発電。同時にバイオトイレにも使っている。

トイレは一杯になったら人力で下すという。地元の方々が、正に「ふんとう」している。頭が下がる。遡行するだけで大変な沢を背負って下す。詳しくは下記にあるので、読んでいただきたい。

<https://bavarde.exblog.jp/16314408/>

北海道に初めて渡ったのは1975年。その時、幌尻岳を上る機会がなかった訳でもなかったが、何故か上らなかった。理由があった。その5年前、日高のカムイエクウチカウチ山で福岡大学生がヒグマに襲われ3名亡くなる事件があった。それ以来、ヒグマは「怖い」イメージが出来てしまった。

飲んでみると、17時ころツアーの方が10余名来た。ガイドは有名な方らしい。若い女性が多かった。殆ど無所属だろう。条件次第だが、1日3万円以上の高いガイド料を支払って参加。山岳会に入る気持ちはないだろうか。

雨が激しくなった。その中、単独の自衛隊員が周遊コースで下って来た。45歳くらいで馬力はありそう。周遊コースの方は少ない。多くはピストン。我々も明日、周遊コースだ。聞けば「ハイ松が酷かった」だった。福島から単身赴任で来ているという。いろいろ聞けば現在、自衛隊は予算が厳しく、装備は古く、月給も低い。「ほとんど、ブラック企業」の言葉が印象的だった。夜は、シュラフカバー2枚で、やや寒かった。

7月15日（月）曇り時々晴れ

コース 起床3：45－幌尻山荘発4：45－金名水4：58－幌尻岳6：52－最低コル8：03－戸蔦別岳9：04－幌尻山荘分岐9：41－額平川・六ノ沢10：57－幌尻山荘11：39～55－林道終点13：37－バス停15：55－バス17：00－とよぬか荘18：00（泊）

標高差 上り 幌尻山荘約950m～幌尻岳2052m＝約1102m
最低コル約1750m～戸蔦別岳1959m＝約209m
下り 幌尻岳2052m～最低コル約1750m＝約302m
戸蔦別岳1959m～バス停車場約770m＝約1189m

44年ぶりの幌尻岳

雨は止んだ。夜、寒かったので天気を期待する。5時前山荘発。既に十分明るかった。出掛けるのは我々だけ。下草を刈ってあるので、カッパは履かなかった。休養は十分なのでグングン上る。山腹を回り込むと尾根に出た。標高1500m付近に「命の水」がある。初めての日高の山々は、朝モヤに煙っていた。この辺りから本格的な上りになる。次第に花が凄くなる。



戸蔦別岳方面



バイケイソウとニッコウキスゲ



幌尻岳・右が北カール



エゾノツガザクラ



ミヤマアズマギク

涼しくて上りやすい。稜線に青空がのぞき期待した。一昨日、とよぬか荘で会った方は、幌尻が深田百名山最後で好天気の上りたいで、わざわざ、とよぬか荘2泊、幌尻荘2泊した。しかし、山の天気が果たして思うように上手くいくものか??

書物にあるように、西からの幌尻は何処がピークかハッキリしない。何となくダラダラっとしている。ズルズル上っていくと、新冠（にいかつぷ）登山道分岐着。このコースは、グレート・トラバースの田中陽希が上って一躍有名になった。ただ、林道を19kmほど歩く。同時にコース的にイマイチ面白くない。田中は縦走故、ここを選んだのか??（今年は崩壊で通行止め）



ミヤマオダマキ

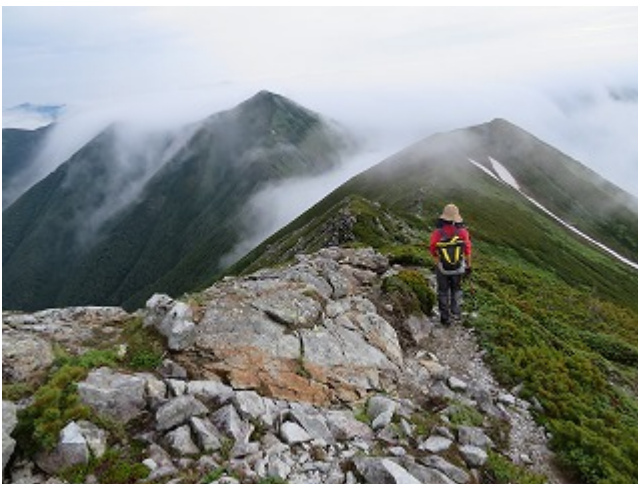


頂上



戸蔦別岳方面

幌尻岳には簡単に着いた。初めて北海道に渡って、実に44年ぶりだった。特に感慨はない。コースタイムよりだいぶ早かった。頂上には、チロロからの若い衆が1名いた。戸蔦別辺りで泊まったようだ。しかし、我々の今日は12時間行動なのでノンビリは出来ない。感激もそこそこに戸蔦別岳に向かう。多くの登山者は山荘からピストン。しかも行き・帰りで2泊する。我々は、戸蔦別から糠平川源流に降りて一気に帰る。理由はある。戸蔦別からセツ沼カールを抱いた幌尻はサイコーの景観。それを見ないで帰れない。(死ねない??!! 笑い)





幌尻岳からセツ沼カール（右）と戸蔦別岳

長居せず戸蔦別に向かう。ガスが去来。程なく、下から男性3名が上って来た。チロロからだ。年配の方がいた。よく頑張る。幌尻山荘の下降点を聞く。北戸蔦別の道標はあるが、山荘の道標はないという。「注意して」のアドバイス。有難い。エールを交わし分かれた。昨夜の自衛隊員が「ハイマツが酷い」といったが、驚くほどのものではなかった。この程度は南ALPSにもある。ただ、昨日午後は雨だったから、その分は大変と思う。



ミヤマアズマギク



エゾキンバイ

最低コルから七ッ沼に下る道があった。情報では、高校生パーティーが泊まったとあったが、確認できなかった。ここに泊まるのはよいが、皆さん「大」の処理をどうするか。ひと夏、大人数が泊り「大」を行えば環境への影響は大きい。本来「持ち帰り」をすべきだろう。マッキンリーなど徹底しているが、日本は甘い。



戸蔦別岳から幌尻岳（左下が七ッ沼カール・高いピークが幌尻）

最低コルから、戸蔦別まで標高差約200mは厳しい上り。ガスが晴れそうで晴れない。ここからスッキリした幌尻を期待したが・・・。

戸蔦別に上った。未練はあったが下山。ヨツバシオガマの色が素晴らしい。花丈が低く纏まっている。山荘下降点は分かりにくかったが分かった。ハイマツが大きい。左手に幌尻の北カールが広がっていた。「よくぞこんな尾根に道を作った」感じの尾根。

大昔は、山荘からの道はなかったから、ここを上ったであろう。ただ、深田久弥は、東の新冠川から七ッ沼経由で上っている。1961年（S36年）8月初旬。58年前だった。（山荘は、1966年ころ建設。北カールの登山道も同じころ）

額平川・六ノ沢出合まで標高差約826mは半端でなかった。体はガタガタ、膝はガクガク。行動時間は既に6時間だった。沢靴に替えて山荘に下る。大きな渡渉はなかった。山荘裏で「水力発電装置」を確認したが分からなかった。山荘で大休止。ラーメンを食う。

例の幌尻で深田百名山の方と再会。しかし、明日の天気はハッキリしない。倍以上になったザック



戸鳶別岳の古い地層の岩



百名山氏

を背負い、再び下山。

沢はやっぱり下りが楽だった。ツアーが2パーティー上って来た。年配の女性が多い。危なっかしい歩きでガイドも大変だ。女性のサブ・ガイドもいる。

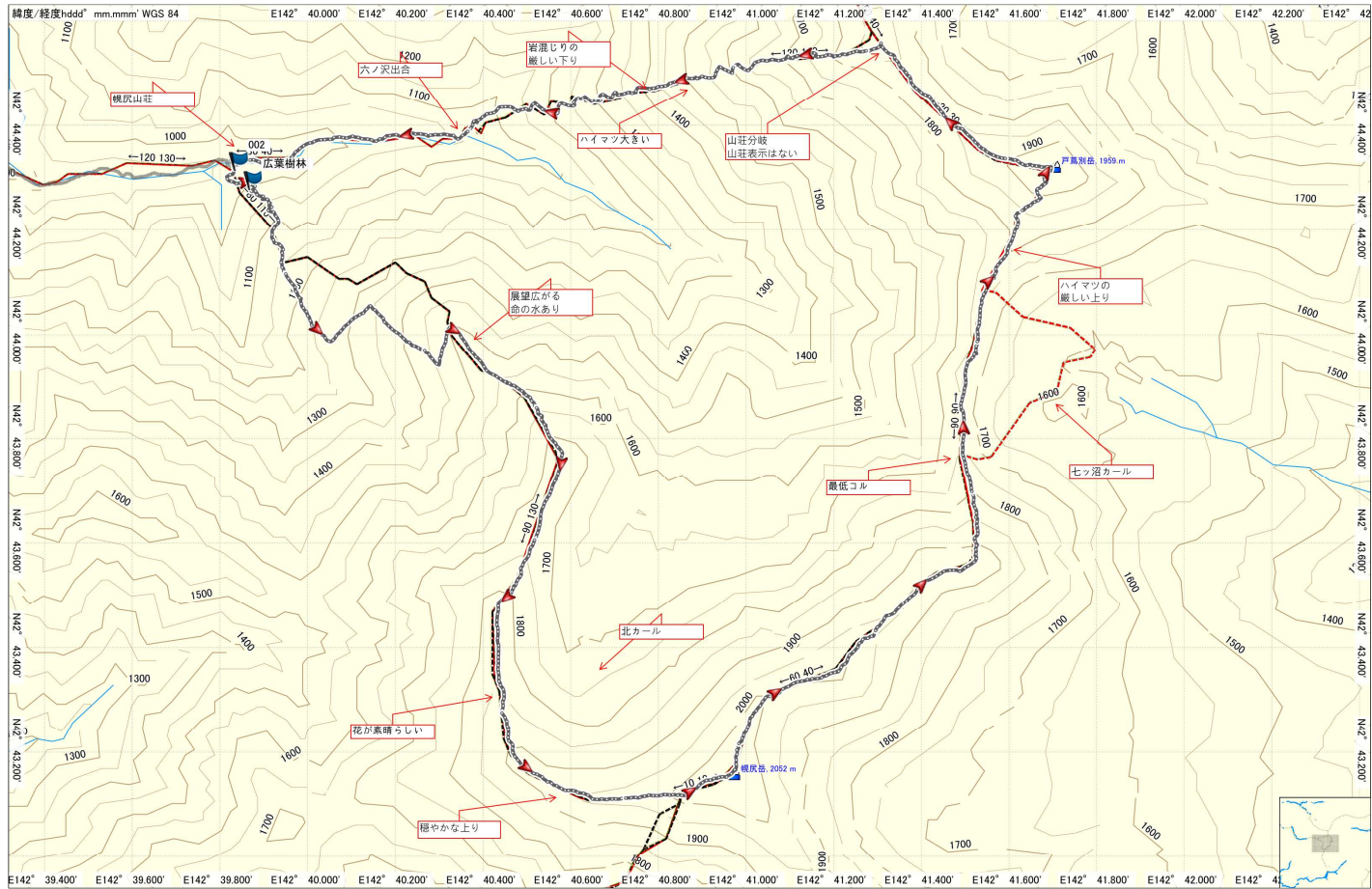
小屋管理人の話では、ちょっと前、この辺でクマがシカを食べていたという。しかも2回だ。シカの足が早いと思うが、管理人いわく「クマの足はあなどれない」だった。確かに山レコを見たら、昨年、1日に2回クマが目撃されている。実際、会ったらビビるね。今夜の山荘は、ツアーが3パーティーで混雑。混んだ小屋は辛い。

程なく林道。登山靴に履き替え歩く。長い、暑い、足は重い、荷も重い、疲れた、の「五重苦」。今日、日帰りの若い衆（といっても50歳代のバツイチ）と交流。百名山狙いで兵庫から来た。明日は、トムラウシを日帰りという。サーフィンが好きで伊豆に時々来るという。

バス停に着いた。疲れて口を利くのも億劫だった。無理もない、この歳で今日の行動は、11時間に及んだ。プレハブ小屋でバタンキュー。1時間でバスが来た。ドライバーは同じ若い衆。感じはよい。バスには、ジュース・ビア販売がある。ロング缶600-でゲット。有難い。再び、とよぬか荘泊。素泊まりは3000-。ガラガラだった。長い長い、幌尻岳は終わった。

(了)





2019/07/22 15:20:35



